

# 立命館経済学

第十二卷 第四号

昭和三十八年十月

---

## 内 容

### 論 説

- 経済における国家の問題 (一) .....高 橋 良 三 1
- 金融資本にかんする一考察.....小 牧 聖 徳 13
- A・スミス D・リカードオ  
J・S・ミルにおける租税転嫁理論の考察.....箕 浦 格 良 26  
——古典学派における財政思想 (四)——
- 広い意味での経済学について (承前).....木 原 正 雄 56  
——「社会主義経済学」の生成と発展——

### 資 料

- 葦輔初「マルクス再生産表式の  
具体化についての試論」.....松 野 昭 二 93  
——社会的生産物の生産と使用の統一的角度から——

立 命 館 大 学 経 済 学 会

立命館経済学 第十二巻・第二号

論説

A・スミス D・リカアドオ  
J・S・ミルにおける租税理  
論の展開……………箕浦格良

——古典学派における財政思想(一)——

戦後地方経費の展開過程……………加藤睦夫

一八世紀後半および一九世紀  
前半におけるライン・ヴェス  
トファーレン鉄加工業の発展  
と市場構造……………川本和良

発行所 立命館大学人文科学研究所

立命館経済学 第十二巻・第三号

論説

社会統計における母集団の意義……………関 弥三郎

A・スミス D・リカアドオ  
J・S・ミルにおける租税転  
嫁論の展開……………箕浦格良

——古典学派における財政思想(二)——

計量経済学モデルによる  
戦後景気循環の構造分析(二)……………岡崎不二男  
——制約された循環か自由な循環か——

発行所 立命館大学人文科学研究所